

特定外来生物クビアカツヤカミキリに警戒してください！

平成24年以降、モモ、ウメ、スモモなどの農作物や街路樹のサクラなどを加害する侵入害虫のクビアカツヤカミキリの発生が、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、愛知県、大阪府、徳島県で確認されています（平成30年4月25日現在）。

これまで、岡山県内では発生を確認していませんが、本虫の対策として、被害が拡大しないように初期の封じ込めが極めて重要なので、今後の侵入に備えて十分に警戒してください。

1 対象病害虫名 クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*)

2 対象作物 モモ、スモモ、ウメ、アンズ等

3 生態及び被害

- (1) モモ、ウメ、サクラ等のバラ科の木本植物が主要な寄主であるが、その他にヤナギ類、カキ、オリーブ、クワ等にも発生するとされている。
- (2) 幼虫が食入した樹は樹勢が低下する。多数の幼虫が寄生し食害量が多くなると、衰弱し、枯死する場合がある。
- (3) 幼虫は1～3年かけて樹の内部を食害し、成長して蛹になる。
- (4) 6月中旬～8月上旬頃に成虫となって出てくる。

4 診断及び見分け方

- (1) 成虫の特徴
 - ・成虫の体長は2.5～4.0cm程度。全体的に光沢のある黒色で、胸部背面が赤い（写真1）。
- (2) フラスの特徴
 - ・幼虫が樹の内部を食害し、食入孔から大量のフラス（木くずと糞が混ざったもの）を排出する（写真2）。フラスは、硬く細長いのが特徴。特徴的な大量のフラスの排出がないか樹幹や株元付近をよく観察する。



写真1 クビアカツヤカミキリ成虫
（写真提供：徳島県）



写真2 株元に排出された大量のフラス
（写真提供：徳島県）

＜参考＞防除対策

- (1) フラスを見つけた場合は、食入孔に針金などを差し込み幼虫を刺殺する。
- (2) 食入孔のある樹幹部にネット等（目合い4mm以下）を巻き付け、羽化した成虫の移動分散を防ぐとともに、成虫を見つけたら捕殺する。
- (3) 登録薬剤を用いて防除する（表1）。
- (4) 被害が大きい樹は伐採する。

表1 クビアカツヤカミキリの防除薬剤

平成30年4月25日現在

薬剤名	成分名	作物名	適用病害虫	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	成分を含む農薬の使用回数
ロビンフッド	フェンプロパトリン	果樹類(※)	カミキリムシ類	-	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	2回以内	2回以内
		もも						7回以内(但し、噴射は2回以内、散布は5回以内)
		うめ						5回以内(但し、噴射は2回以内、散布は3回以内)
		かき						
		さくら	クビアカツヤカミキリ		-	6回以内	6回以内	
ベニカカミキリムシエアゾール	フェンプロパトリン	果樹類(※)	カミキリムシ類	-	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	2回以内	2回以内
		もも						7回以内(但し、噴射は2回以内、散布は5回以内)
		うめ						5回以内(但し、噴射は2回以内、散布は3回以内)
		かき						
		さくら	クビアカツヤカミキリ		-	6回以内	6回以内	
バイオリサ・カミキリ	ボーベリアブロンニアティ	果樹類	カミキリムシ類	1樹あたり1本	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	成虫発生初期	-	-
		さくら	クビアカツヤカミキリ		主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける			
		食用さくら(葉)						

※かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く

5 その他

本種が疑われる事例を確認した場合は、病害虫防除所(086-955-0543)又は最寄りの指導機関等にご連絡ください。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようにお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

